日本語教育の内容・方法の改善における成果物

平成19年7月　定住外国人の増加を受け，文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置。

平成21年1月 【報告書】「日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討」
①体制整備⇒国・都道府県・市町村の役割分担，②各機関の連携協力の在り方，③コーディネート機関・人材の必要性，④日本語教育の内容の大枠の提示　※④に基づき，「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法について検討。

【検討1】「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法の検討

・「外国人が地域で生活できるようになり，社会参加できる」ようになるために必要な日本語教育の考え方，各地での工夫・応用の仕方を以下の具体物を通して提示。

H22.5.19

①「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について

・「知る」ではなく「できるようになる」ことが期待される生活上の行為を提示。
・各地域が地域の実情に合わせて，独自のプログラムを作るための案。

H23.1.25

②「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について　活用のためのガイドブック

・地域の実情把握からプログラム開発・実践まで，カリキュラム案に準拠し，地域の日本語教育の展開する上で必要な手順を提示。

H24.1.31

③「生活者としての外国人」に対する日本語教育の教材例集

・生活の基盤形成・社会参加につなげる日本語教育の教材を例示。
・各地域で工夫を加え，外国人の地域社会への参加につなげるためのアイデアを指導ノートに記載。

H24.1.31

④「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

・日本語教育の実践と関連付けた評価の在り方について提案。日本語能力の把握を行う方法と学習履歴・能力を記録するファイルを提示したもの。

H25.2.18

⑤「生活者としての外国人」に対する日本語教育の指導力評価について

・日本語教育プログラムの実践者がPDCAサイクルに基づいて，自らの指導力を評価するチェックシートをはじめとする指導力向上のための日本語指導力ポートフォリオを提示。

各地域において，上記成果物を活用して各地域の実情に応じた日本語教育を展開し，日本語教育を通じて，外国人が地域社会とつながり，外国人の社会参加（エンパワーメント）・多文化共生社会につながることを期待。

【検討2】 日本語教育に関する課題の検討

・日本語教育小委員会に「課題整理に関するワーキンググループ」を設置し，平成25年2月18日に「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について（報告）」を取りまとめ。平成26年1月31日に「日本語教育の推進に当たっての主な論点に関する意見の整理について（報告）を取りまとめた。平成26年度は「論点7.日本語教育のボランティアについて」「論点8. 日本語教育に関する調査研究の体制について」を中心に検討している。

「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの実践のための5点セット

指導者について　｜　教室活動の内容について　｜　学習者について

教室活動のデザインと参加　　参加

行動・体験中心の教室活動への参加による日本語学習，相互理解

指導力評価

◎実践の振り返り・点検・改善から，実践者のコミュニティの形成

【内容】
日本語教育プログラムの実践をＰＤＣＡサイクルの観点から振り返るためのもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について

作成：平成25年2月18日

カリキュラム案

◎教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示

【内容】
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容を示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案について

作成：平成22年5月19日

ガイドブック

◎カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせるときのポイントの解説

【内容】
カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントを示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック

作成：平成23年1月25日

教材例集

◎行動・体験中心の教材の例示

【内容】
カリキュラム案で取り上げている生活上の行為を取り上げ，行動・体験中心の教室活動で用いる教材を例示したもの（教室活動の展開や工夫の仕方を説明した指導ノート付き）。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案　教材例集

作成：平成24年1月31日

能力評価

◎振り返りの方法とポートフォリオの提示～やったことを確認して記録

【内容】
学習者の自己評価に加えて，日本語能力を把握する方法と，学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを提示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

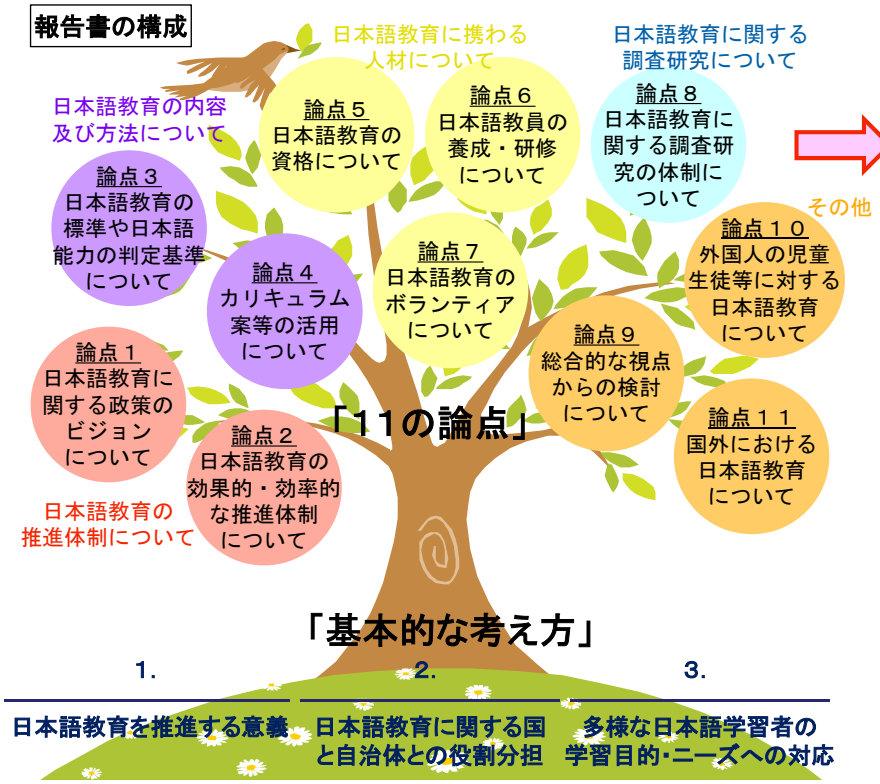
作成：平成24年1月31日

ハンドブック（全体を説明）　※正式名称　「生活者としての外国人」のための日本語教育　ハンドブック

文化審議会国語分科会日本語教育小委員会～今期の検討課題～

○平成24年5月28日に日本語教育小委員会に「課題整理に関するワーキンググループ」を設置。
日本語教育を推進する意義等について再確認するための検討を行い，改めて「基本的な考え方」を整理。
その上で，今後，具体的な施策の方向性や日本語教育の推進方策を議論していく際の「検討材料」として「11の論点」を整理。

報告書の構成



現在の検討状況

○日本語教育小委員会において，論点を「検討材料」として調査，ヒアリング等を実施

○日本語教育小委員会以外にも，様々な機会を生かして，関係機関・団体，都道府県・市区町村等から１１の論点に関してデータ，意見を収集し，整理。

○平成26年1月31日に「日本語教育の推進に当たっての主な論点に関する意見の整理について（報告）」を取りまとめ。

今期の検討

○まず，論点７「日本語教育のボランティアについて」，論点８「日本語教育に関する調査研究の実施体制について」検討を開始。